

## 「人生のやる気デザイン」研究部会（第6回）

日時：2020年10月12日（月）13：00～15：00

場所：オンライン会議（ZOOMにより開催）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・倉住友恵・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員  
吉久知延所長・金沢千秋・泉水里香・鈴藤益弘

内容：（1）倉住研究員の報告：「オリジナル人生ゲーム」の作成を通じて大学生の肯定的な未来志向を育む

1. 社会情動的選択性理論(socioemotional selectivity theory: SST)についての文献紹介  
Carstensen, L. (2006). The Influence of a Sense of Time on Human Development.

*Science* 312, 1913-1915

SSTは、生涯にわたる動機づけについての理論で、人は（特に高齢者において）人生の時間に限りがあると認識したとき、ポジティブな感情を優先する→ポジティブ優位性  
欧米で行われた研究では一貫してポジティブ優位性を支持する結果を報告しているが、本邦の研究ではSSTを支持する結果と支持しない結果とが出ている。

2. 今後の調査計画として、「オリジナル人生ゲーム」の作成により、人生観や将来展望に変化がみられるか考察する。

（2）榎本研究員の報告：障害を持つ人の「葛藤」を考える

・先天性の疾患を持つ人と持たない人とは、経験として何が異なるのか。

→先天性の障害である場合が多い「聴覚障害者」の研究を検証する。

<文献1>山口利勝（1997）. 聴覚障害学生における健聴者の世界との葛藤とデフ・アイデンティティに関する研究 教育心理学研究, 45, 284-294

<文献2>山口利勝（1998）. 聴覚障害学生の心理社会的発達に関する研究：健聴者の世界との葛藤とデフ・アイデンティティの影響 教育心理学研究, 46, 422-431

<文献3>山口利勝（2001）. ろう者のアイデンティティ発達—ろう学校に長く在籍していた青年の場合— 心理臨床学研究 18, 557-568

<文献4：レビュー論文>藤嶋 桃子・岩田 吉生（2019）. 難聴者のアイデンティティ形成に関する検討：多文化に繋がる子どものアイデンティティ形成との関連から障害者教育・福祉学研究, 15, 63-72

（3）中井研究員の報告：「恋愛活動」に関するパッション(わくわくドキドキ)を検討する

1. パッションとは→調和性パッションと強迫性パッションの2側面の存在

2. パッションを測定する尺度→本研究では、恋愛に対するパッションが弱い群から強い群まで、全てのサンプルを対象に、パッションを規定する要因や、パッションが影響する要因を検討したい

・次回研究会は 2020年11月20日（金）10：00～12：00 予定